

一般演題（口述発表） 演題番号（1～5）

2018.9.30（sun） 10:00～11:00

発表会場

第2会場（3階研修室）

演題番号	演題タイトル	演者氏名	座長
1	確立共鳴現象は若年健常成人の視覚-運動統合機能を向上する	信迫 悟志	池田 由美
2	右側頭葉・頭頂葉脳梗塞を発症し,身体所有感の低下を認めた症例	白石 圭佑	
3	パーキンソン病患者の起立動作改善を目的とした足底触覚課題の有効性	三上 恭平	
4	右肩関節腱板断裂術後患者に対する両手行為改善のために —両手情報バランスに着目した両手訓練の試み—	新開谷 まゆき	
5	麻痺手の使用, 不使用に関する主観的経験の解明	塚田 遼	

一般演題（ポスター発表）

2018.9.30（sun） 奇数演題：9:30～10:30 偶数演題：10:30～11:30

発表会場

▷第3会場（2階展示ホール）

奇数演題：（7～31） 偶数演題：（6～30）

▷第4会場（2階レセプションホール）

奇数演題：（33～97） 偶数演題：（32～96）

セッション	演題番号	演題タイトル	演者氏名
基礎系	6	肩関節疾患がアリストテレスの錯覚に与える影響	荻野 敏
	7	左右半球損傷者の身体性と志向性-計量テキスト分析による検討-	上田 将吾
	8	運動無視症状を呈した当事者の身体経験について現象学的分析の試み	山中 真司
	9	対側手への重量や表面素材の知覚情報が同側手のPreshapingに与える影響	林 節也
	10	素材識別課題施行時の低コスト簡易接触圧計測装置の試作	鈴木 里砂
	11	視覚入力を用いた自己運動錯覚の定量化の試み —Bimanual circle line coordination taskを用いて—	舞田 大輔
	12	触覚情報の違いが自伝的記憶の想起に及ぼす影響	八坂 一彦
	13	パーキンソン病関連疾患における情報変換機能の特性について ～試作版下肢フロリダテストを用いた検討～	三上 純
	14	知覚課題後の立位バランスと知覚閾値の変化	菅沼 惇一

セッション	演題番号	演題タイトル	演者氏名
神経系 へ 上肢 ▽	15	右片麻痺患者の行為獲得に伴う上肢機能改善と記述変化との関係性について	宮城 大介
	16	来歴を考慮した両手操作訓練が有効であった中心性脊髄損傷症例	岸 優斗
	17	「物にぶつかると気が付かない」右片麻痺患者への一介入 ～両手動作の損傷前イメージを使用して～	坂本 隆徳
	18	右視床出血後の手指の痺れに対し、接触の予測に着目し痺れが改善した症例	山田 貴之
	19	食事行為の改善が見られた多発性硬化症の一症例 ～多感覚情報の統合の変質の病態へのアプローチ～	濱田 裕幸
	20	脊髄性の両上肢重度感覚障害症例に対する書字動作への介入 ～術前の経験を用いた予測を利用して～	佐藤 祥太
	21	身体各部位の認識が困難な症例に対し視覚的に自己身体運動を確認することで行為の改善を認めた一報告	櫃尾 正樹
	22	手指の空間認識の改善がその後の機能回復を促進した一症例	大塚 開成
	23	注意の向け方で失調症状が抑制され手の行為が変化した一症例	小岩 真実
	24	麻痺側上肢の使用頻度向上を認めた慢性期脳卒中片麻痺症例 ～予測と結果の誤差が正となる課題を通じて～	石橋 凜太郎
	25	お碗をもって食事をするという行為に改善を認めた左片麻痺症例	豊田 拓磨
	26	脳梗塞後、腰背部の清拭動作困難となった一症例	西川 大裕
	27	起立動作の対称性の再構築を目指した左片麻痺の一症例 ～両手の相互作用に着目した介入～	山口 伊三郎
	28	脳卒中後よりADLが停滞し疲労感が出現した症例への介入経験 —把持力計測を手がかりとした病態解釈の試み—	三田 晃希
	29	慢性期右片麻痺患者の身体性が〈回復への諦め〉から〈行為可能性への希望〉へと 変容した要因の一考察	加藤 祐一
30	慢性期脳卒中後運動麻痺に対するBMIを用いた介入の試み	藤原 瑤平	
31	運動意図に合わせたイメージの生成により随意運動が出現した慢性期脳卒中症例	空野 楓	
神経系 へ 下肢 ・ 体幹 ▽	32	体幹垂直性再構築によって上肢異常知覚が改善した脊髄炎症例	岡本 浩一
	33	運動イメージが想起出来ないネガティブな経験から構築された左足の運動主体感の 獲得に向けて	山形 繁広
	34	足首から下がわからないと記述する慢性期左片麻痺対象者に在宅での認知課題が 有効であった一例	竹中 準
	35	体性感覚情報を正しく捉えることで運動失調の改善を認めた橋出血症例	柿本 裕斗
	36	延髄梗塞により足底の表在感覚鈍麻を呈した症例に対して損傷前イメージを使用し 知覚の改善を試みた症例	佐々木 翔太
	37	左被殻出血により右片麻痺を呈し、身体表象に変容がみられた一症例	尾科 洋輔
	38	運動失調患者の運動学習過程の特徴について ～足部機能から立位姿勢を中心に～	小西 勇亮
	39	行為間比較で用いる“損傷以前の行為”について振り返る	橋間 葵
	40	膝ロックを呈した片麻痺患者に対する概念図を用いた治療介入	瀬戸 雄海
	41	「体の真ん中がわかりません」と訴える左片麻痺者の安定したトイレ動作獲得を 目指して ～立ち上がり動作を中心に～	安田 真章
	42	麻痺側立脚時にExtension thrust patternが生じる症例に対しHeel rockerの出現を 目指した介入経験	酒井 康成

セッション	演題番号	演題タイトル	演者氏名
神経系 へ 下肢・ 体幹 ▽	43	足底部重度感覚鈍麻を呈した症例への感覚フィードバック ～裸足での生活を目標に～	山中 ひかる
	44	歩行障害を呈した脳梗塞患者の一例 ～身体表象の階層性に着目した介入経験～	吾妻 勇吹
	45	首下がり症候群における特異的な座位姿勢より感覚統合異常を疑い介入した2症例	遠藤 博
	46	パーキンソン病患者の姿勢制御の介入	中谷 明賢
	47	両下肢完全麻痺症例の身体イメージ構築による機能回復に向けて～ダイナミックタッチより構築した身体イメージから得られる体性感覚と視覚の統合～	松田 大輔
	48	転倒恐怖感が強い慢性期の小脳梗塞症例の歩行に対する治療介入	加藤 雅大
	49	視神経脊髄炎を発症し、痺れや感覚障害が出現した一症例 ～足底細分化に着目したアプローチ～	永原 巧
	50	脳卒中片麻痺患者の退院後の転倒予防について -VRを用いた治療経験からの考察-	伊藤 大剛
	51	情動の喚起によって姿勢制御が困難となった症例 -注意の分配に着目した介入経験-	池田 勇太
	52	小児麻痺を既往に持つ脳梗塞患者に対して認知神経リハビリテーションと 課題指向型訓練を併用した介入事例	田淵 美希
	53	歩行開始時に躊躇を示した症例 -予測的姿勢制御の定量的分析による病態把握-	山岡 竜也
	54	オノマトペの使用が歩行開始時のすくみ足の改善に効果的であったパーキンソン病の 一例	西島 勇
	55	足底感覚の認識課題によって立脚期の側方動揺が減少した右側視床部・延髄部出血例 ～社交ダンス復帰に向けて～	山下 翔二
整形 外科 疾患	56	「左脚が長い」と記述した多発骨折後の一症例	門脇 敬
	57	変形性膝関節症に対してイメージのホームエクササイズを試みた一症例	清水 勇貴
	58	脊椎破裂骨折により不全麻痺を呈した症例	別府 信孝
	59	大腿骨頸部骨折術後にて身体図式の再構築から損傷前行為の想起・比較が可能に なり歩行が改善した症例	菅原 大
	60	観察場面における比較によって行為が改善した橈骨遠位端骨折の症例 ～患側の第1段階から第3段階による比較を用いて～	宮本 大輝
	61	大腿骨転子部骨折術後症例に対して情報処理における整合性に着目した訓練の 一考察	袴田 友樹
	62	右化膿性膝関節炎後の膝関節機能不全により跛行を呈した症例 ～身体所有感の再構築から身体イメージの改善を目指して～	家村 太
	63	橈骨頭骨折に伴う固定後に身体所有感の変容を窺う記述をした症例	日下部 洋平
	64	整形外科急性期からの認知運動療法介入による効果検証 ～下腿骨骨折患者での検証～	西村 清陽
	65	膝の機能障害が遷延化した症例 ～経時的な訓練展開に関する一考察～	橋本 宏二郎
疼 痛	66	腕神経叢損傷に対する認知神経リハビリテーション ～イメージの適正化が回復を促した症例～	深谷 幸広
	67	受傷前より歩行機能が低下していた左大腿骨転子部骨折後症例に対する介入経験	松田 総一郎
	68	頸部痛患者の能力障害に身体知覚異常が関与する	山下 裕
	69	三人称的運動予測と一人称的運動予測の比較を用いる訓練の一案 ～変形を伴わない膝関節痛の身体イメージに着目して～	宮島 唯一
	70	手の使用を痛みとして知覚される症例に対するアプローチ	米谷 和音

セッション	演題番号	演題タイトル	演者氏名
疼痛	71	身体の認識が可能となることで荷重時痛やアライメント異常が改善した人工骨頭置換術後の症例	近江川 彩夏
	72	CPSP症例の病態分析と介入経験 ～鏡を用いた視覚-体性感覚情報の統合評価～	中川 幸太郎
高次脳機能障害	73	慢性期失行症例におけるジェスチャー観察時の視覚探索特性～模倣障害の回復過程に関する一考察～	寺田 萌
	74	コミュニケーションにおける予測と相互性にアプローチした慢性期重度運動性失語の一例	湯浅 美琴
	75	失行症状によりトイレ動作の獲得に難渋した症例に対する介入方法の検討	田口 周司
	76	失語症の症例へ行為を言語化することの有効性	松本 洋平
	77	認知運動課題により歩行の改善が見られた重度失語症を伴う慢性期右片麻痺症例～課題の意図の視覚的な分析に着目して～	佐々木 克尚
	78	失行症を呈した症例の手指模倣時の注視特性ー錯行為から正反応に至る経時的变化ー	河野 正志
	79	観念運動失行を呈した症例が右遊脚期の到達機能の再構築を目指して～視覚情報から体性感覚情報を用いる運動制御課題を行った結果～	山崎 真維
	80	失行による上肢到達機能に問題がみられた前頭葉梗塞患者への介入	遠藤 信
	81	情報変換の停滞により起き上がり動作が困難となった失行症例への介入報告	佐川 雅俊
	小児	82	自閉傾向を呈する精神運動発達遅滞児の人・環境（外の世界）との関わりについて
83		足部の認識向上が四つ這い移動やつかまり立ちの創発につながった精神運動発達遅滞児の一例	小柳 翔太郎
84		眼球運動の主観的疲労感が軽減した発達性協調運動障害児の一症例	濱崎 厚志
85		重度知的障害児の探索行動における視覚情報の活用を目指した介入	三田 弥寿子
86		手と物体との関係性により自己身体を知ることの考察	伊東 奈津子
87		模倣を利用した介入によって歩行能力の向上および階段昇降が獲得された重度知的障害児の一例 ～共同注意に着目して～	森 武志
88		運動失調と認知機能の障害により転倒を繰り返す小脳開頭腫瘍摘出術後の小児例～体幹の姿勢制御と感情調整に着目して～	橋崎 裕里
89		情動と運動を組織化する課題に関する一考察	中澤 恵美
その他	90	複線径路等至性モデルによる社会が身体に与える影響についての検討（第2報）-訓練が身体像に与える影響-	高木 泰宏
	91	視覚の有無により運動予測と運動単位の動員が変化するBrown Séquard Syndromeを呈した症例～異なる視覚条件の模倣動作を用いた検証作業～	新田 麻美
	92	姿勢緊張をガチガチガチと表現した聴神経腫瘍症例～姿勢制御機構に着目した治療戦略～	沖田 学
	93	上肢急性動脈閉塞症患者への認知神経リハビリテーションとしての介入	佐藤 雅哉
	94	降段イップスを呈した症例	平井 達也
	95	作業に焦点をあてた認知神経リハビリテーション（ETC）の実践	西村 昭宣
	96	保険外領域における認知神経リハビリテーション実践の現状と工夫	生野 達也
	97	方法としての認知神経リハビリテーションを考える	米元 佑太